

第22回

品川区世論調査 あらまし

この小冊子は、2016（平成28）年に実施した「第22回世論調査」の要約版です。今回は、経年変化をみる定住性や重点施策などの項目に加え、区議会、公共施設、地域活動への参加、環境、地域スポーツの推進などの項目についてもたずねました。調査の結果は、今後の区政運営にあたり貴重な資料として活用してまいりたいと考えております。

ご協力いただきました区民の皆様には心より御礼を申し上げるとともに、調査結果の概要をお知らせいたします。

調査の内容

- 1 定住性について
- 2 生活環境について
- 3 重点施策について
- 4 区議会について
- 5 公共施設について
- 6 地域活動への参加について
- 7 環境について
- 8 ごみの各戸収集とリサイクルについて
- 9 防災について
- 10 オリンピック・パラリンピックについて
- 11 地域スポーツの推進について
- 12 健康について
- 13 認知症について
- 14 シティプロモーションについて
- 15 広報と情報化について

調査概要

- 調査対象：品川区在住の満20歳以上の男女個人
(平成28年6月1日現在)
- 抽出方法：層化2段無作為抽出法
- 対象者数：1,500人
- 調査方法：調査員による個別面接聴取法
- 回収数：1,070人
- 回収率：71.3%
- 調査期間：平成28年6月24日～7月10日
- 調査機関：株式会社 エスピ一研

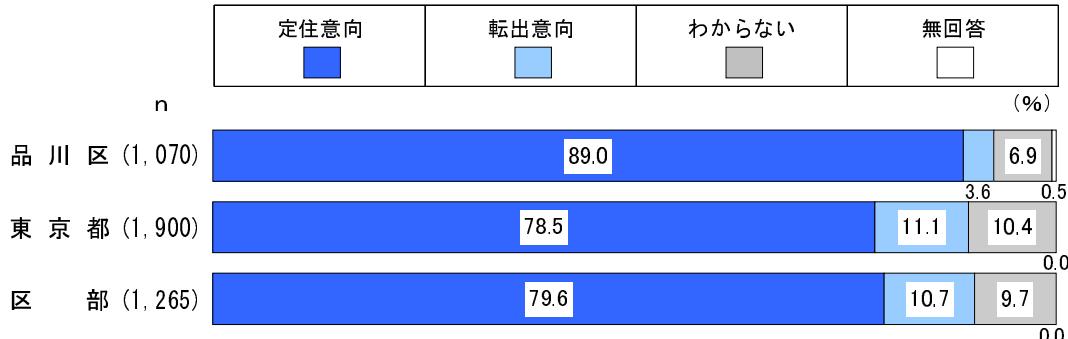
この要約版は、世論調査の結果を抜粋し、わかりやすくまとめたものです。詳しい調査結果は、第22回世論調査として区公式ホームページと、区政資料コーナー（第三庁舎3階）または、図書館で閲覧することができます。

1 定住性について

■ 定住意向 区民の定住意向は高い

定住意向をたずねたところ、これからも引き続き品川区に「ずっと住みたい」(49.1%)と「当分は住みたい」(39.9%)を合わせると89.0%で、定住意向は依然として高い水準を保っています。

また、東京都、区部との比較でみると、東京都より10.5ポイント、区部より9.4ポイント高くなっています。



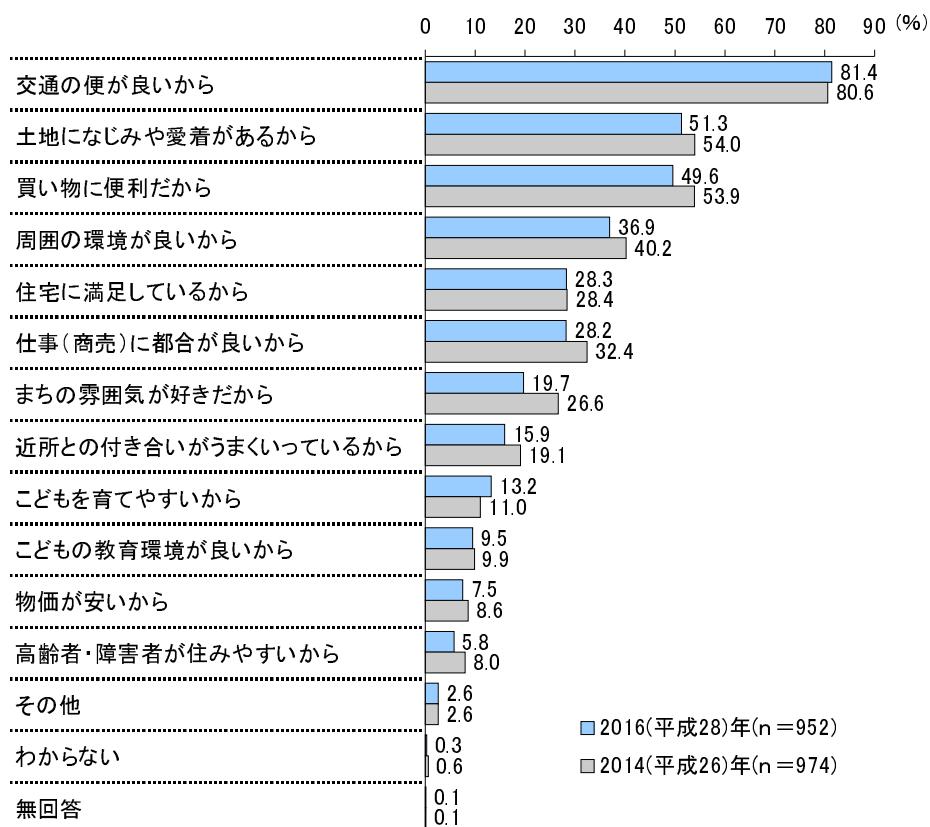
※注意点

東京都と区部は地域定住意向の調査結果

資料出所：東京都生活文化局「都民生活に関する世論調査」（平成27年）

■ 定住意向理由 交通の便が良いという理由が上位

品川区に「ずっと住みたい」「当分は住みたい」と思う理由は、「交通の便が良いから」が81.4%と最も高く、次いで「土地にじみや愛着があるから」(51.3%)、「買い物に便利だから」(49.6%)などの順となっており、交通や買い物の便の良さが大きな理由となっています。

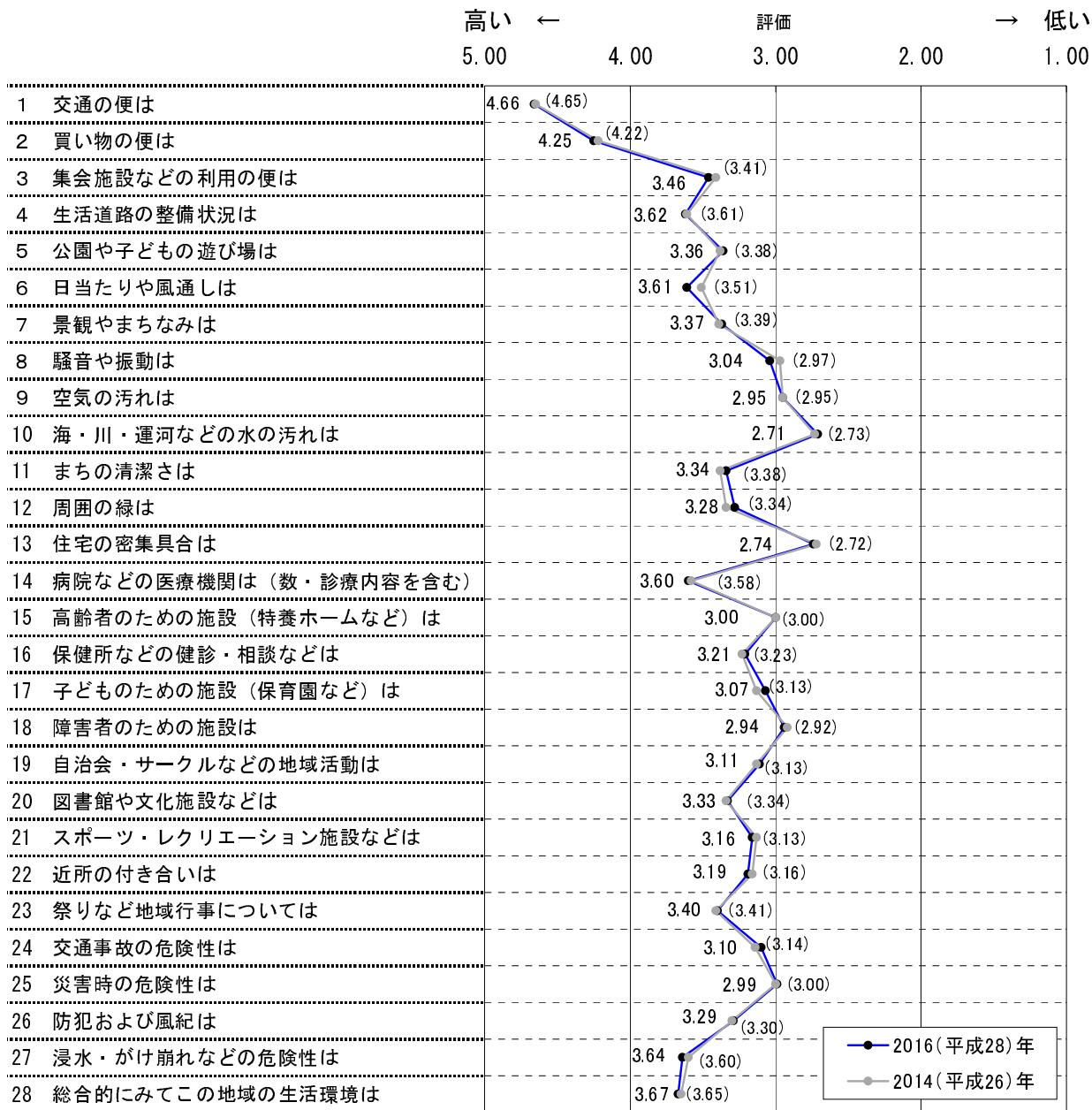


2 生活環境について

■ 生活環境についての評価

交通や買い物の便での評価が高く、環境面での評価が低い

生活環境を評価点でみると、「交通の便」や「買い物の便」での評価が高く、「海・川・運河などの水の汚れ」や「住宅の密集具合」といった環境面での評価が低くなっています。



評価点＝（「良い」の回答者数×5点+「やや良い」の回答者数×4点+「普通」の回答者数×3点+「やや悪い」の回答者数×2点+「悪い」の回答者数×1点）÷回答者数

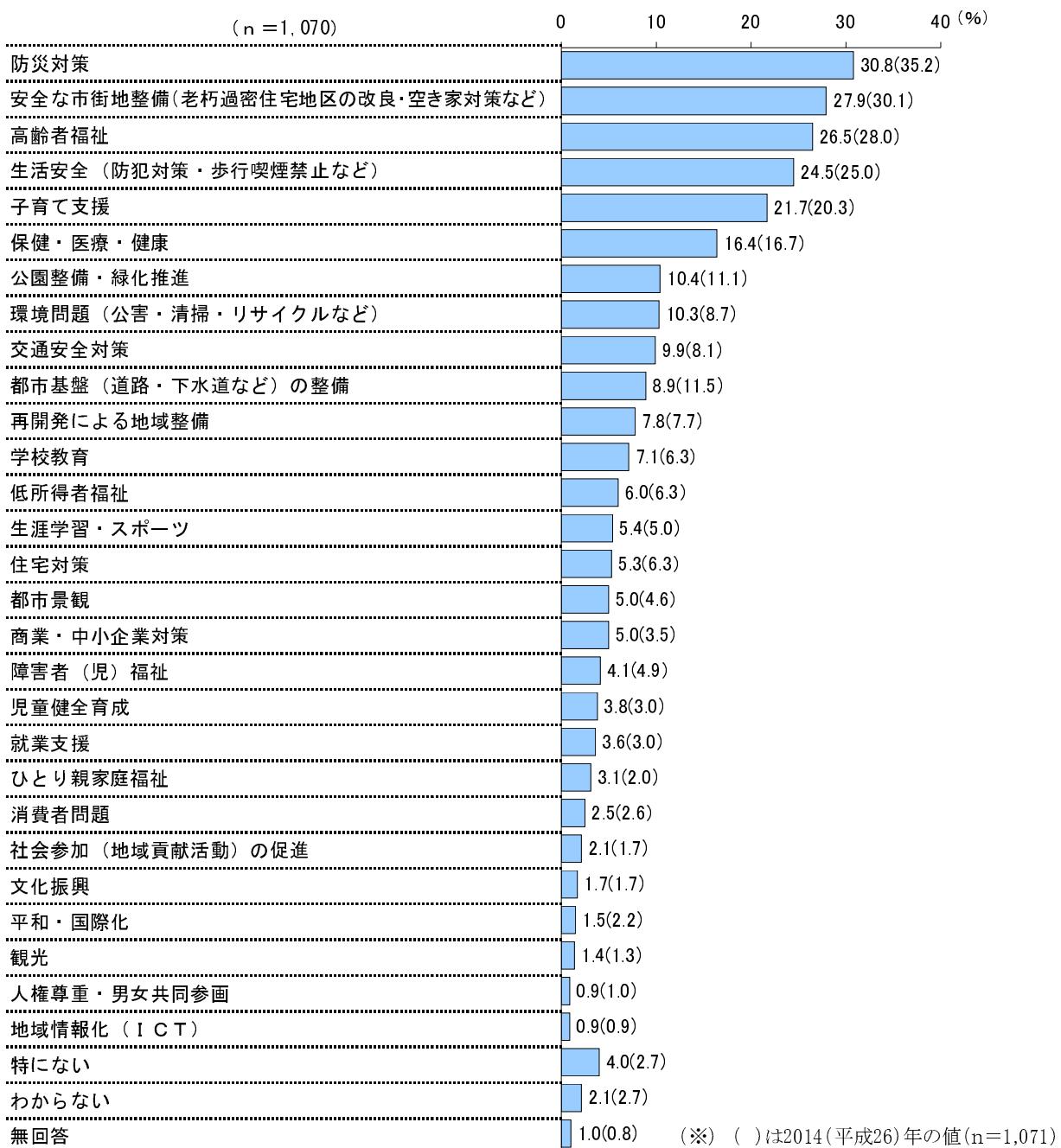
図中、かっこない値は2016(平成28)年の評価点を、かっこ付きの値は2014(平成26)年の評価点を示します。

3 重点施策について

■ 今後特に力を入れてほしい施策

「防災対策」、「安全な市街地整備（老朽過密住宅地区の改良・空き家対策など）」、「高齢者福祉」が上位3項目

区の施策の中で、今後特に力を入れてほしい施策は、「防災対策」が30.8%と最も高く、次いで「安全な市街地整備（老朽過密住宅地区の改良・空き家対策など）」(27.9%)、「高齢者福祉」(26.5%)、「生活安全（防犯対策・歩行喫煙禁止など）」(24.5%)、「子育て支援」(21.7%)などの順となっています。



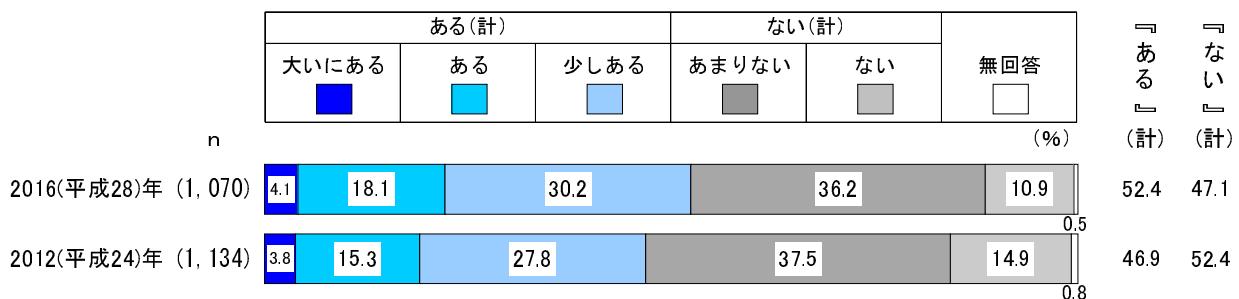
(※) 「安全な市街地整備（老朽過密住宅地区の改良・空き家対策など）」は、2014（平成26）年では「安全な市街地整備（老朽過密住宅地区の改良など）」

4 区議会について

■ 区議会への関心

関心の『ある』人が5割を超える

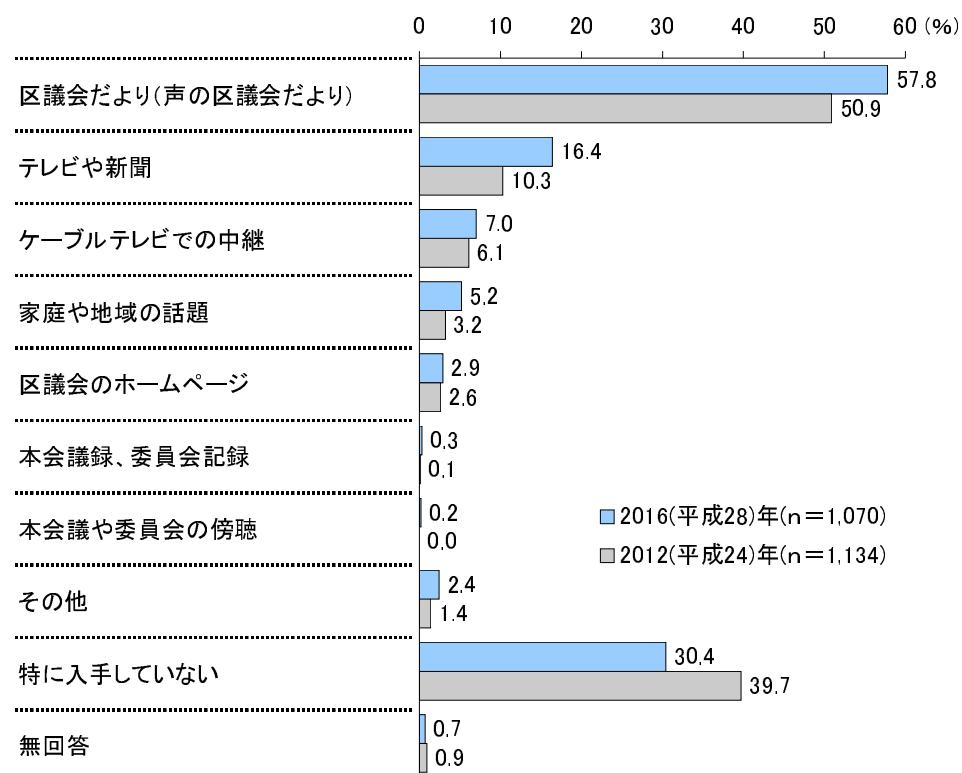
区議会への関心をたずねたところ、「大いにある」(4.1%)と「ある」(18.1%)と「少しある」(30.2%)を合わせた『ある』は52.4%となっています。



■ 区議会情報の入手先

「区議会だより（声の区議会だより）」が6割近く

区議会情報の入手先をたずねたところ、「区議会だより（声の区議会だより）」が57.8%と特に高く、次いで「テレビや新聞」(16.4%)、「ケーブルテレビでの中継」(7.0%)などの順となっています。



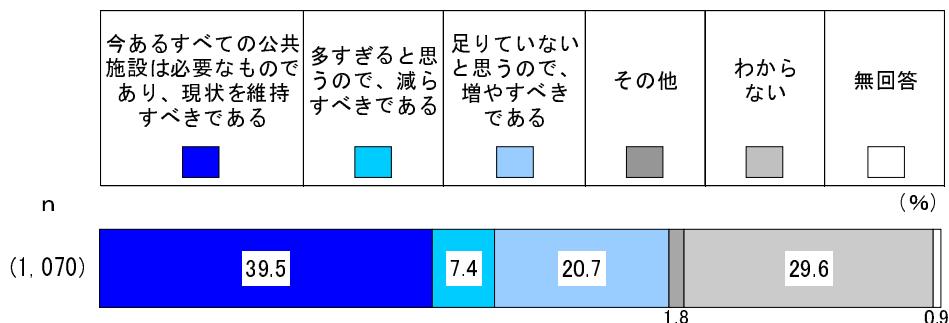
(※) 「本会議録、委員会記録」は、2012（平成24）年では「本会議録」

5 公共施設について

■ 公共施設の総量

「今あるすべての公共施設は必要なものであり、現状を維持すべきである」が4割

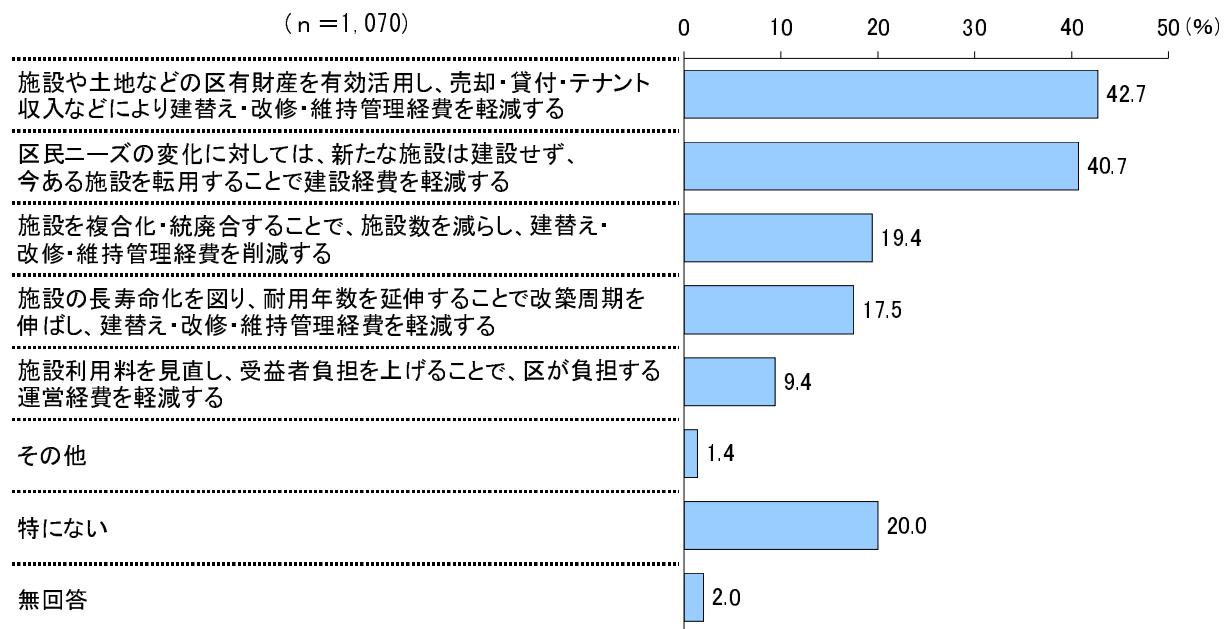
公共施設の総量についての考え方をたずねたところ、「今あるすべての公共施設は必要なものであり、現状を維持すべきである」が39.5%、「足りていないと思うので、増やすべきである」は20.7%、「多すぎると思うので、減らすべきである」は7.4%となっています。



■ 施設に対する方策で適切だと思うもの

「施設や土地などの区有財産を有効活用し、売却・貸付・テナント収入などにより建替え・改修・維持管理経費を軽減する」が4割を超える

施設に対する方策で適切だと思うものをたずねたところ、「施設や土地などの区有財産を有効活用し、売却・貸付・テナント収入などにより建替え・改修・維持管理経費を軽減する」が42.7%と最も高く、次いで「区民ニーズの変化に対しては、新たな施設は建設せず、今ある施設を転用することで建設経費を軽減する」(40.7%)、「施設を複合化・統廃合することで、施設数を減らし、建替え・改修・維持管理経費を削減する」(19.4%)などの順となっています。

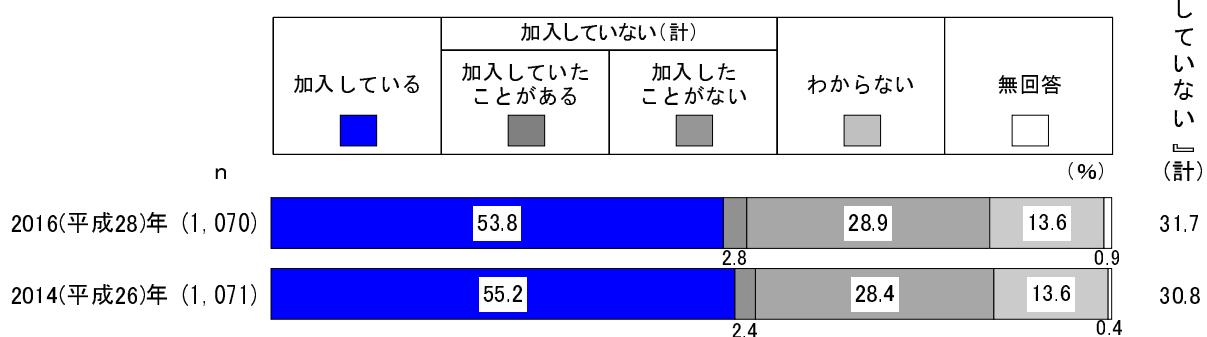


6 地域活動への参加について

■ 町会・自治会の加入状況

「加入している」が5割を超える

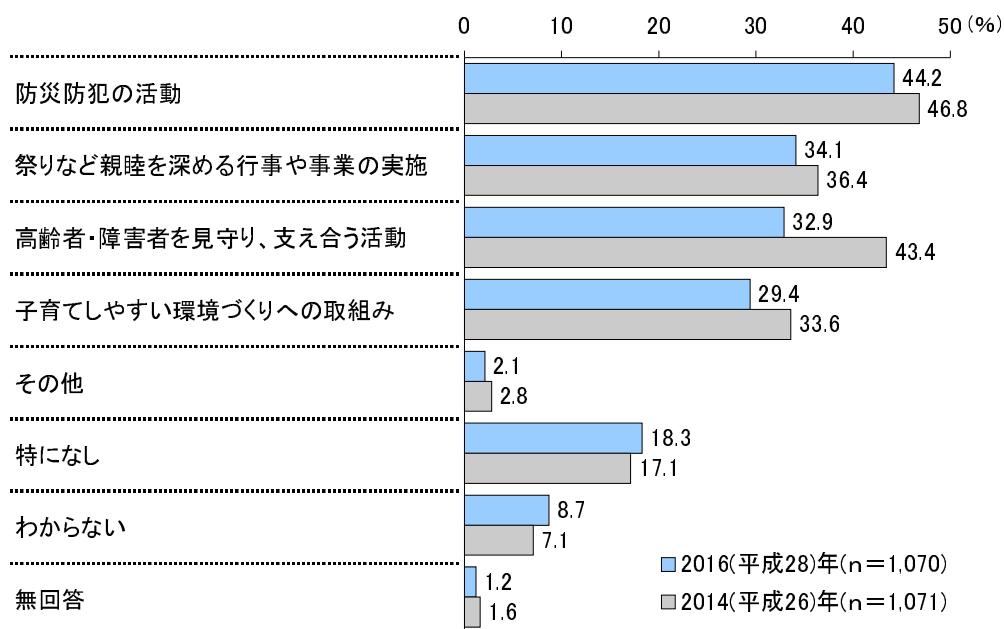
町会・自治会の加入状況をたずねたところ、「加入している」が53.8%となっています。一方、「加入していたことがある」(2.8%)と「加入したことがない」(28.9%)を合わせた『加入していない』は31.7%となっています。



■ 町会・自治会に期待すること

「防災防犯の活動」が4割半ば

町会・自治会に期待することをたずねたところ、「防災防犯の活動」が44.2%と最も高く、次いで「祭りなど親睦を深める行事や事業の実施」(34.1%)、「高齢者・障害者を見守り、支え合う活動」(32.9%)などの順となっています。



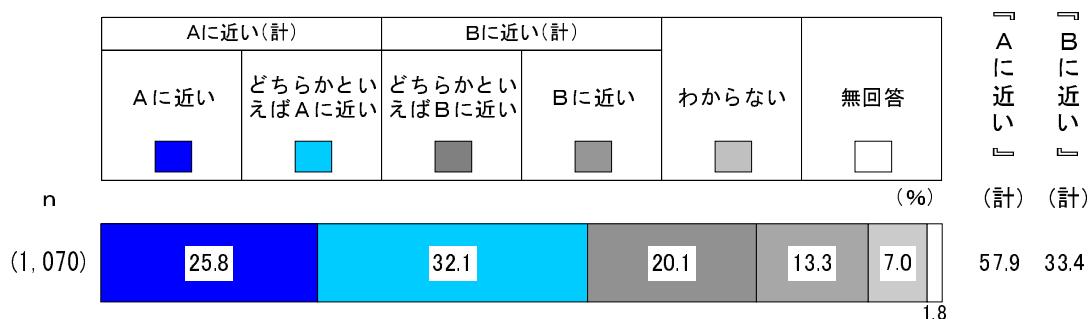
7 環境について

■ 環境保全と経済の発展や生活の利便さの優先度

「経済コストがかかっても、地球環境に負荷（負担）の少ない生活スタイル」を選ぶ人が6割近く

環境保全と経済の発展や生活の利便さの優先度をたずねたところ、「どちらかといえばAに近い」が32.1%と最も高く、これに「Aに近い」(25.8%)を合わせた『Aに近い』は57.9%となっています。一方、「どちらかといえばBに近い」(20.1%)と「Bに近い」(13.3%)を合わせた『Bに近い』は33.4%となっています。

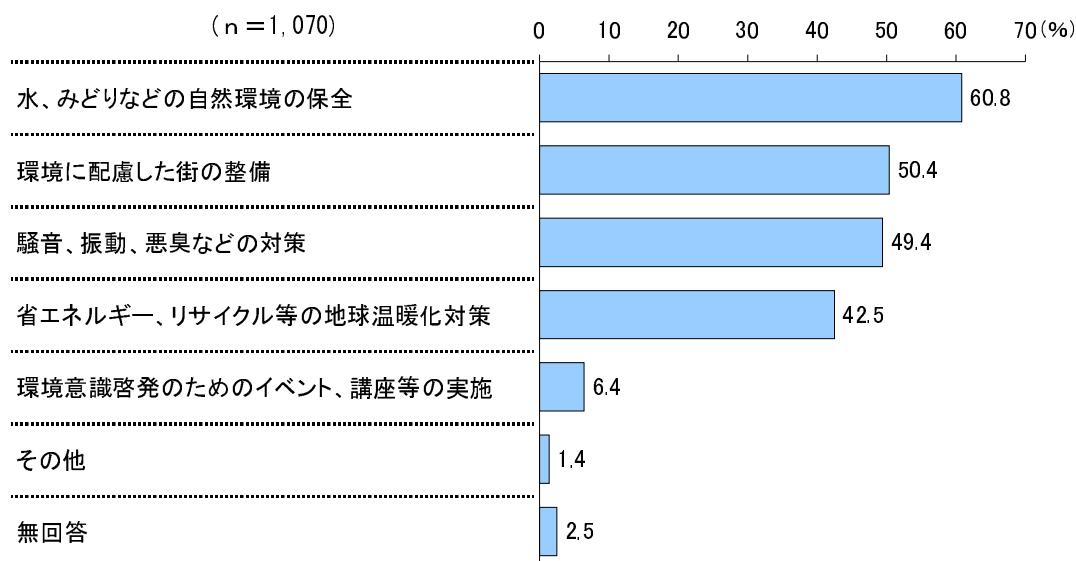
- A 経済コストがかかっても、地球環境に負荷（負担）の少ない生活スタイルを選ぶ
- B 地球環境の大切さはわかるが、便利さ・安さを優先させる



■ 環境計画見直しにあたり重点的に取り組んでほしいこと

「水、みどりなどの自然環境の保全」が約6割

環境計画見直しにあたり重点的に取り組んでほしいことをたずねたところ、「水、みどりなどの自然環境の保全」が60.8%と最も高く、次いで「環境に配慮した街の整備」(50.4%)、「騒音、振動、悪臭などの対策」(49.4%)などの順となっています。

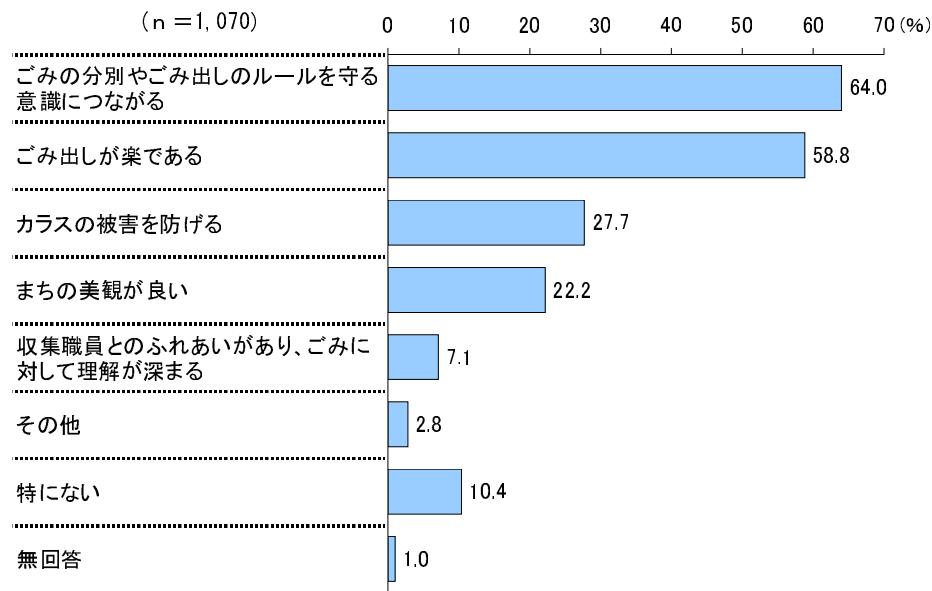


8 ごみの各戸収集とリサイクルについて

■ 各戸収集について感じること

「ごみの分別やごみ出しのルールを守る意識につながる」が6割半ば

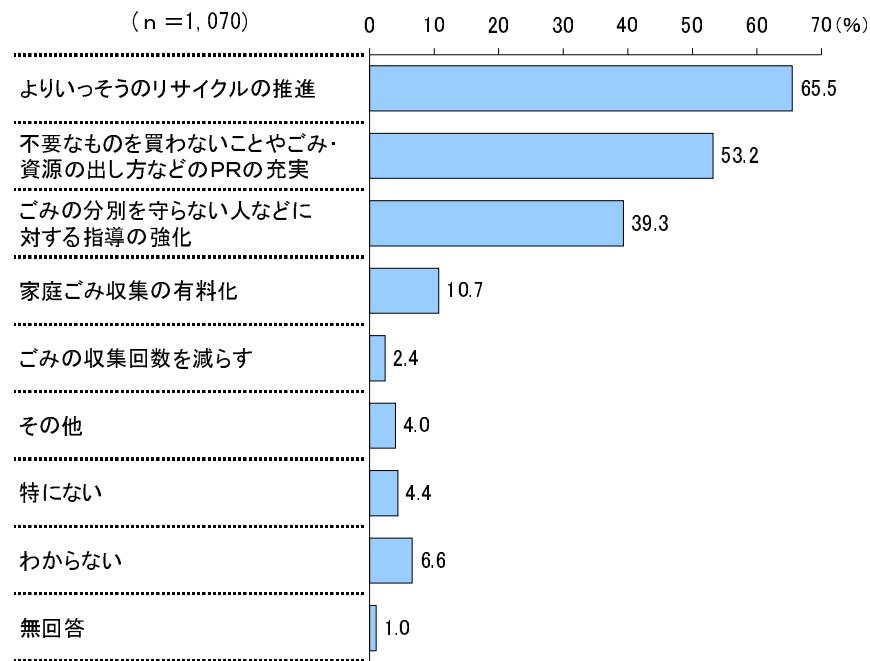
各戸収集について感じることをたずねたところ、「ごみの分別やごみ出しのルールを守る意識につながる」が64.0%と最も高く、次いで「ごみ出しが楽である」(58.8%)、「カラスの被害を防げる」(27.7%)などの順となっています。



■ 今後のごみ・リサイクル事業で必要と思われること

「よりいっそうのリサイクルの推進」が6割半ば

今後のごみ・リサイクル事業で必要と思われるることをたずねたところ、「よりいっそうのリサイクルの推進」が65.5%と最も高く、次いで「不要なものを買わないことやごみ・資源の出し方などのPRの充実」(53.2%)などの順となっています。

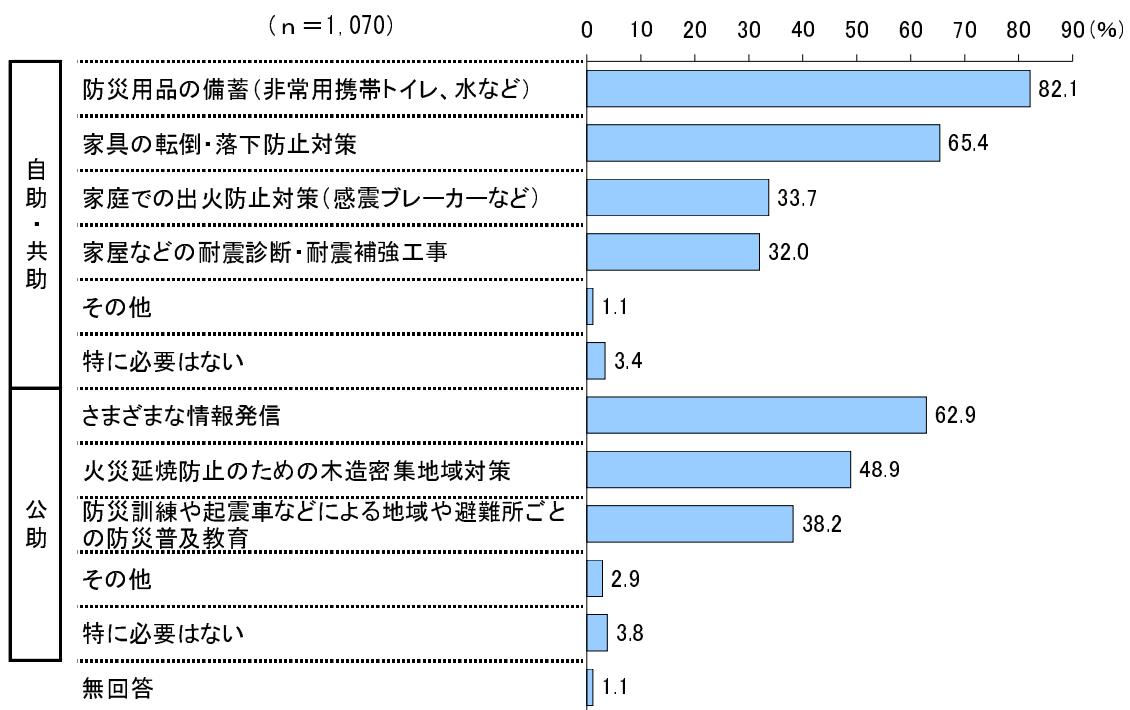


9 防災について

■ 今後充実すべき防災対策

「防災用品の備蓄」、「さまざまな情報発信」がそれぞれで高い

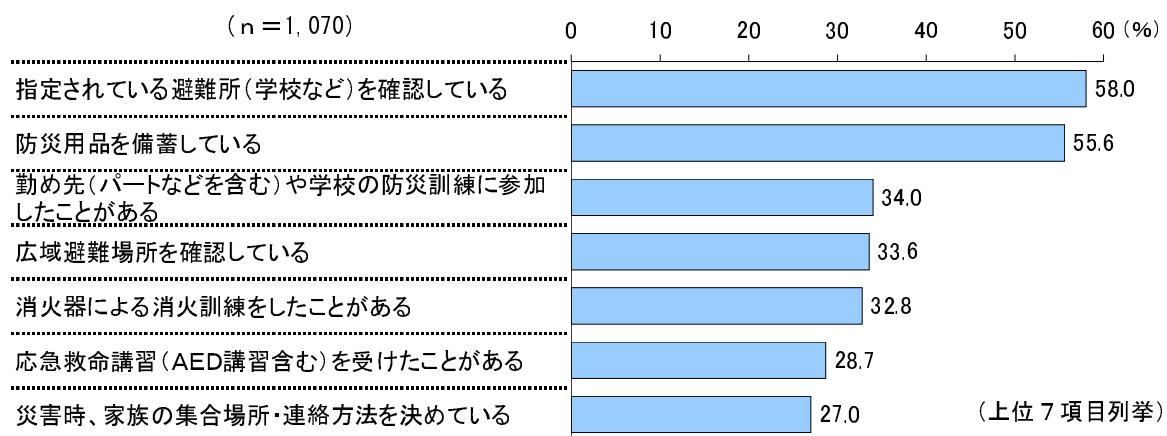
今後充実すべき防災対策についてたずねたところ、＜自助・共助＞では「防災用品の備蓄（非常用携帯トイレ、水など）」が82.1%と最も高く、次いで「家具の転倒・落下防止対策」（65.4%）などの順となっています。＜公助＞では「さまざまな情報発信」が62.9%と最も高く、次いで「火災延焼防止のための木造密集地域対策」（48.9%）などの順となっています。



■ 防災に関して既に行っていること

「指定されている避難所（学校など）を確認している」が6割近く

防災に関して既に行っていることをたずねたところ、「指定されている避難所（学校など）を確認している」が58.0%と最も高く、次いで「防災用品を備蓄している」（55.6%）、「勤め先（パートなどを含む）や学校の防災訓練に参加したことがある」（34.0%）などの順となっています。

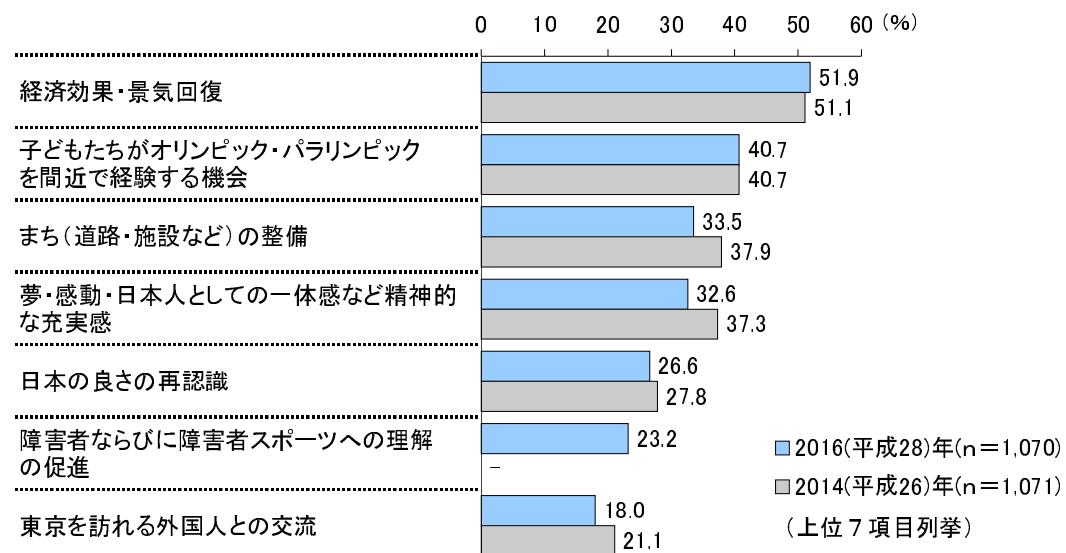


10 オリンピック・パラリンピックについて

■ 東京オリンピック・パラリンピックに期待すること

「経済効果・景気回復」が5割を超える

東京オリンピック・パラリンピックに期待することをたずねたところ、「経済効果・景気回復」が51.9%と最も高く、次いで「子どもたちがオリンピック・パラリンピックを間近で経験する機会」(40.7%)、「まち（道路・施設など）の整備」(33.5%)などの順となっています。

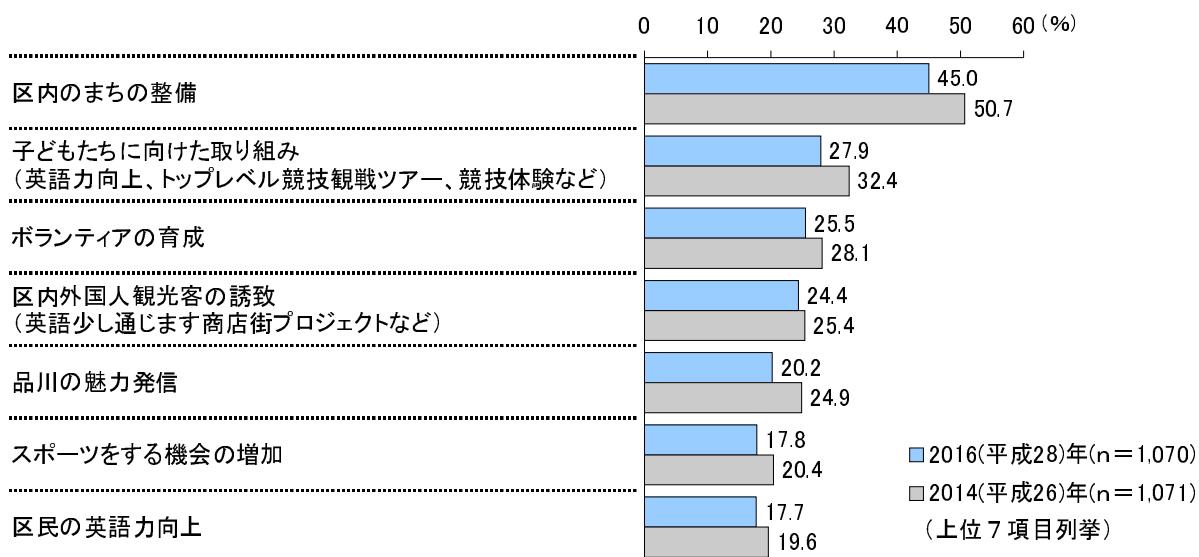


(※) 「障害者ならびに障害者スポーツへの理解の促進」は今回調査から追加

■ 2020年に向けて必要なこと

「区内のまちの整備」が4割半ば

2020年に向けて必要なことをたずねたところ、「区内のまちの整備」が45.0%と最も高く、次いで「子どもたちに向けた取り組み(英語力向上、トップレベル競技観戦ツアー、競技体験など)」(27.9%)、「ボランティアの育成」(25.5%)などの順となっています。

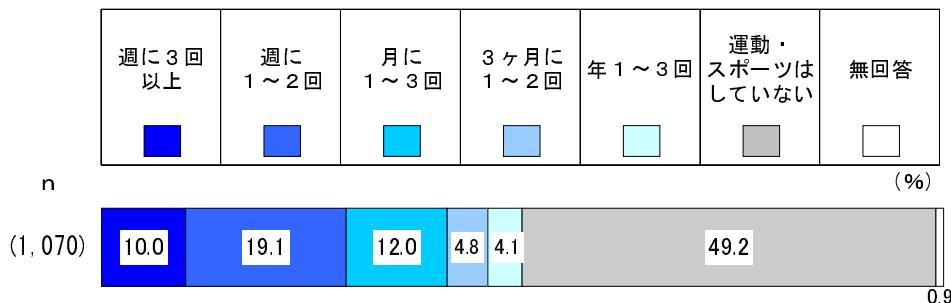


11 地域スポーツの推進について

■ 運動やスポーツを行う頻度

「週に1～2回」が約2割、「運動・スポーツはしていない」が約5割

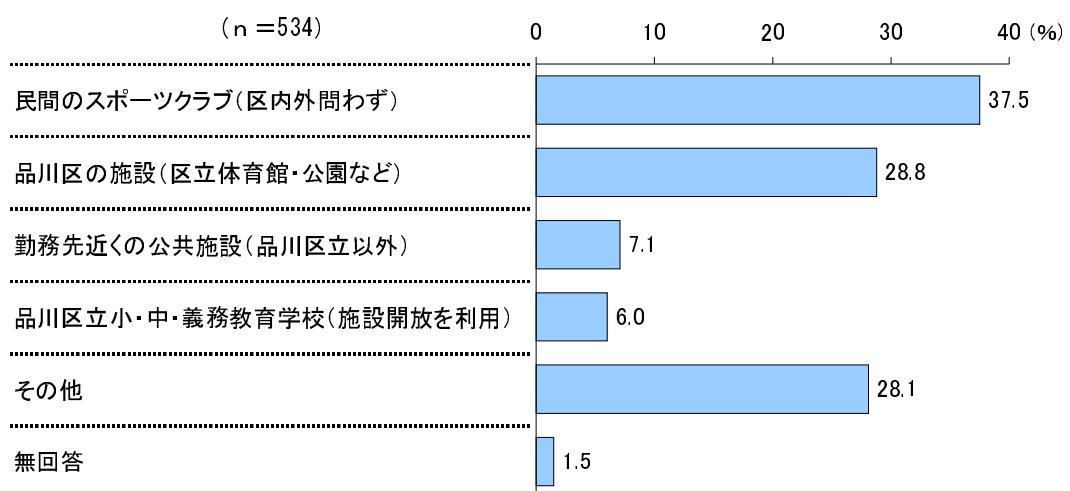
運動やスポーツを行う頻度をたずねたところ、「週に3回以上」が10.0%、「週に1～2回」が19.1%、「月に1～3回」が12.0%となっています。一方、「運動・スポーツはしていない」が49.2%となっています。



■ 運動やスポーツを行う場所

「民間のスポーツクラブ（区内外問わず）」が4割近く

運動やスポーツを行う場所をたずねたところ、「民間のスポーツクラブ（区内外問わず）」が37.5%と最も高く、次いで「品川区の施設（区立体育館・公園など）」（28.8%）、「勤務先近くの公共施設（品川区立以外）」（7.1%）の順となっています。

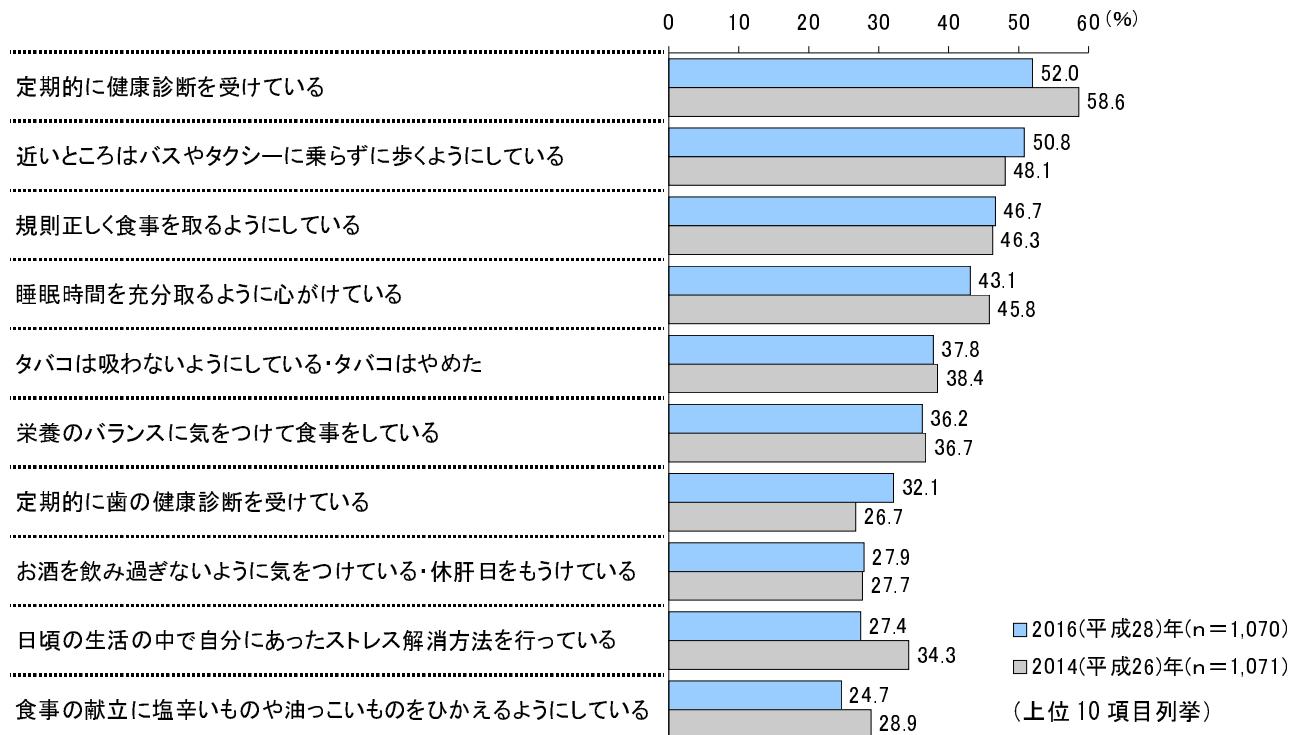


12 健康について

■ 健康のために日頃から行っていること

「定期的に健康診断を受けている」が5割を超える

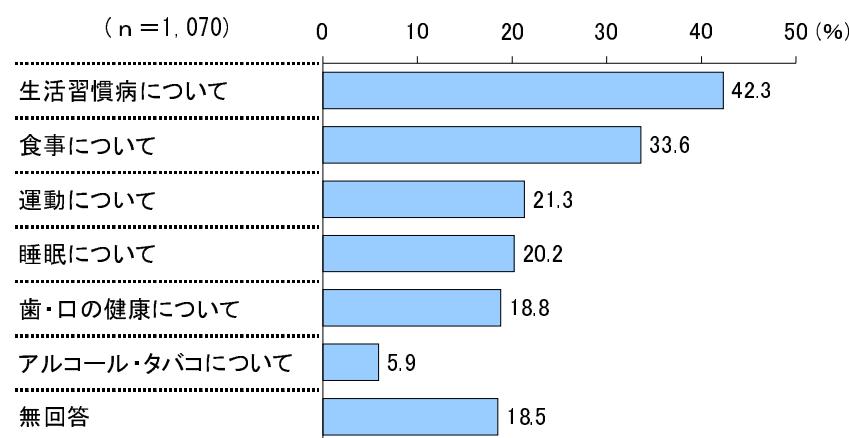
健康のために日頃から行っていることをたずねたところ、「定期的に健康診断を受けている」が52.0%と最も高く、次いで「近いところはバスやタクシーに乗らずに歩くようにしている」(50.8%)、「規則正しく食事を取るようにしている」(46.7%)などの順となっています。



■ 学んでみたいと思う講座

「生活習慣病について」が4割を超える

学んでみたいと思う講座をたずねたところ、「生活習慣病について」が42.3%と最も高く、次いで「食事について」(33.6%)、「運動について」(21.3%)などの順となっています。

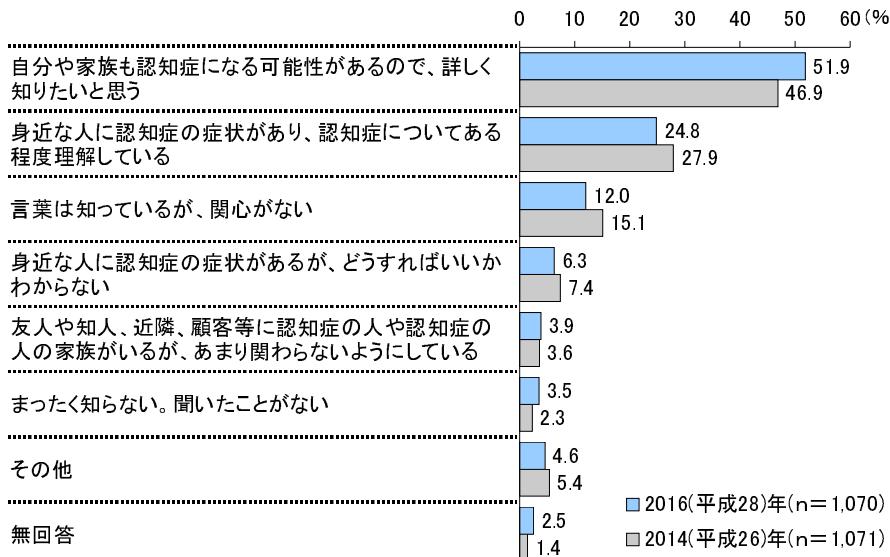


13 認知症について

■ 認知症についての考え方

「自分や家族も認知症になる可能性があるので、詳しく知りたいと思う」が5割を超える

認知症についての考え方をたずねたところ、「自分や家族も認知症になる可能性があるので、詳しく知りたいと思う」が51.9%と最も高く、次いで「身近な人に認知症の症状があり、認知症についてある程度理解している」(24.8%)、「言葉は知っているが、関心がない」(12.0%)などの順となっています。

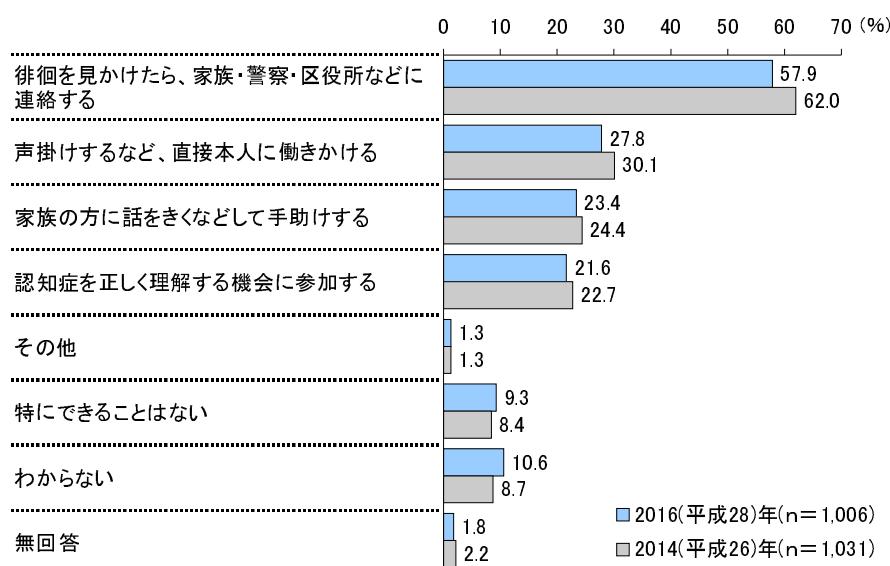


(※) 「身近な人に認知症の症状があるが、どうすればいいかわからない」は、2014（平成26）年では「身近な人に認知症の症状がある（疑われる）が、どうすればいいかわからない」

■ 認知症患者に支援できること

「徘徊を見かけたら、家族・警察・区役所などに連絡する」が6割近く

認知症患者に支援できることをたずねたところ、「徘徊を見かけたら、家族・警察・区役所などに連絡する」が57.9%と最も高く、次いで「声掛けするなど、直接本人に働きかける」(27.8%)、「家族の方に話をきくなどして手助けする」(23.4%)などの順となっています。

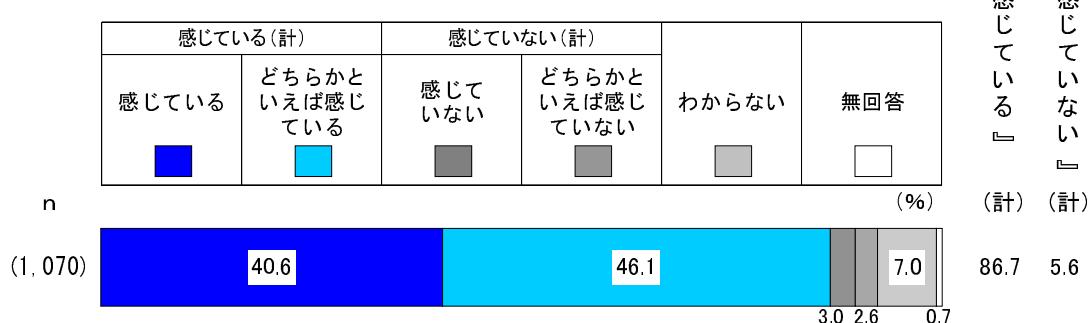


14 シティプロモーションについて

■ 品川区への愛着や親しみ

『感じている』が9割近く

品川区への愛着や親しみについてたずねたところ、「感じている」(40.6%)と「どちらかといえば感じている」(46.1%)を合わせた『感じている』は86.7%となっています。一方、「感じていない」(3.0%)と「どちらかといえば感じていない」(2.6%)を合わせた『感じていない』は5.6%となっています。

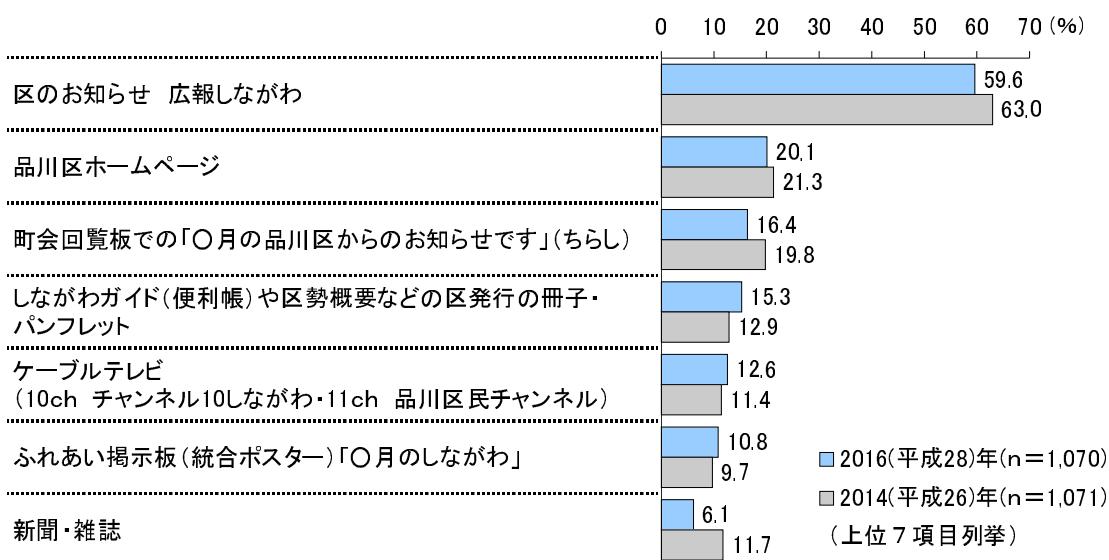


15 広報と情報化について

■ 区に関する情報の入手先

「区のお知らせ 広報しながわ」が6割

区に関する情報の入手先をたずねたところ、「区のお知らせ 広報しながわ」が59.6%と特に高く、次いで「品川区ホームページ」(20.1%)、「町会回覧板での『〇月の品川区からのお知らせです』(ちらし)」(16.4%)などの順となっています。



第22回品川区世論調査 要約版
2016（平成28）年11月

発行 品川区企画部広報広聴課
品川区広町2-1-36
03(5742)6643(直通)

実施 株式会社エスピー研 調査事業部
東京都千代田区飯田橋3-11-20
03(3239)0071(代表)

古紙を配合した紙を使用しています